

昨年、一部で営農を再開した長泥地区では、その拡大を目指して、さまざまな取り組みが進められています。

環境省による復興再生土壌の再生利用事業で工事がされている農地、第2～第4工区のうち、第4工区は令和7年度に村や地権者に返還され、農作物の安全性を確認する試験栽培を終えています。また第2・第3工区は今年度末に返還される予定で、第1工区は来年度以降に環境省が農地造成に着手する予定です。



第4工区、緑肥となる麦の畑。

今年度は、第4工区で、米と野菜の実証栽培、緑肥となる麦の栽培を行います。また、第2・第3工区では、米と野菜の試験栽培及び実証栽培を行います(第4工区と同様の工法で造成された農地であるため期間が短縮されています)。これらの事業における農作業は、村と県が主体となって、地区の営農組合と協力しながら実施するものです。今年度の試験栽培・実証栽培で基準をクリアし、これまでの結果と合わせて、来年度に出荷制限が解除されることを目指しています。

力を合わせて
一步一步
可能性を
広げています

2026
長泥地区の
農業

先行して試験栽培・実証栽培を終え、昨年営農を再開した庄司喜一さん(長泥/右写真の右から2人目)の圃場では、5月22日に、2年目の田植えが行われました。手伝いに集まった皆さんと共に、25.2aの圃場に「里山のつづ」の田植えを行った庄司さん。「役場や農協、環境省の方など、いろいろな人が関わっている、そんな田んぼになりました」と笑顔で話していました。秋に収穫する米は、全量全袋検査を経て市場へ出荷し、自家用米にもする予定です。妻の光子さんが、手伝いの皆さん、見学の皆さんに、手製のおむすびを振る舞いました。

庄司さん営農再開2年目の田植え



各工区でも田植えを行いました

同じく22日に、第2・第3・第4工区でも実証栽培のための田植えが行われました。第2工区の田植えでは、地区の皆さんが、手植えで補植も行いました。



広菜の花畑が
まじがた

前田・八和木地区に、今年も美しい菜の花畑が現れました。「11区営農組合」(今野茂之組合長)が栽培する菜の花の圃場で、栽培面積は全体で13.3ha。写真は、渡邊文夫さん(前田・八和木)の農地(3.1ha)です。「村の補助を受け、営農組合で協力して育てています。飯館村の特産品になるくらい育ってくれたらうれしい」と渡邊さん。収穫したナタネは、二本松市や南相馬市に出荷し、出荷先で菜種油などに加工されます。



シャクヤク「レッドチャーム」の圃場にて、勉強会の様子。右から2人目が顧問で講師の北原さん。北原さんは約60aの圃場でさまざまな品種のシャクヤクを栽培しています。



飯館花卉協議会の勉強会

02
かき
花卉

4月に発足した「飯館花卉協議会」(西川徳(いさお)会長/宮内)が、年間事業計画に従い、5月11日、栃木県那須塩原市で花卉を栽培する北原彰さん(宮内)の農場で、勉強会を開催しました(協議会の発足についてはP25の記事をご覧ください)。北原さんは震災直後から約15年間、花卉栽培に取り組んでいて、蓄積してきた経験や知識を活かして、村の花卉産業に貢献したいと考えています。事務所で開かれた勉強会では、これまでの実践を踏まえ、「付加価値の高い品目を振興し、村の主力商品にできれば」と、花卉の再興に向け提案しました。この日の勉強会には生産者の他、JA職員、村職員などが参加。さらに圃場では、シャクヤクを中心に、出荷時期を見極める「切り前」や株作り、品種などについて学び、ハウスでは、トルコギキョウの土壌消毒も見学しました。

03
畜産
ブランド牛の復活を目指して

現在、11経営体が、村内で黒毛和牛の繁殖・肥育に取り組んでいます。また、株式会社ゆーとぴあは、畜産と精肉店の二刀流で、村の畜産に活気をもたらしています。震災前に「飯館牛」として売り出していたブランド牛の基準をどのように再定義して復活させるか、生産者の皆さんに、村や県も加わって、意見交換を続けています。



ブランド牛
特定の地域で厳しい基準のもと飼育された牛肉の総称。風土や飼育方法による味わいの違いが楽しめます。

野菜を生産する企業の進出



野菜の生産に取り組む人も増えていて、付加価値の高いおいしい野菜を、道の駅の直売所や、それぞれの出荷先に出荷し評価を得ています。

04
野菜

また、複数の企業や農業法人が、村内で野菜の栽培に取り組んでいます。

昨年村で起業した、やさいファーム株式会社(丸山輝也代表)は、コマツナ、サトイモ、サツマイモなどの露路栽培からスタートし、この春、白石地区に、大型のハウスを建設しました。このハウスには今後、太陽光電池で電力をまかなうヒートポンプと蓄電池が設置され、冬でも野菜がとれるようになるそうです。「飯館村での仕事はとても楽しい」と言う丸山代表。「年間を通して野菜が生産できる全国初の施設になります。キュウリは年間40tの出荷量を目指します」と話していました。現在、従業員の休憩所を整備中で、収穫作業などで働いていただける方を募集していくそうです。